

平成 27 年度 第 4 回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録

日 時：平成 27 年 10 月 27 日（火）18：30～20：40

会 場：区民・産業プラザ（ココネリ） 研修室 1

1. 事務局長挨拶

本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。第 4 次地域福祉活動計画（案）説明会を 4 回開き、貴重なご意見をいただいた。本日はまとめあげていくために忌憚のないご意見をいただきたい。各委員には説明会に分担してご参加いただきまして感謝申し上げます。

委員長：本日は、最終的な案にするため職員から説明をいただく。よろしくをお願いします。

2. 配布資料確認

- 資料 1 第 4 次地域福祉活動計画（案）第 4 次計画（案）4 章・5 章
- 資料 2 第 4 次地域福祉活動計画（案）説明会・パブリックコメント報告
- 資料 3 第 4 次地域福祉活動計画概要版（案）
- 資料 4 地域福祉協働推進員（ネリーズ）周知の進捗状況について
- 資料 5 地域福祉協働推進員（ネリーズ）説明会でいただいた意見と返答

3. 第 4 次地域福祉活動計画（案）説明会について

第 4 次地域福祉活動計画（案）説明会資料を用いて説明。

【質疑応答・意見交換】

なし

4. 第 4 次地域福祉活動計画（案）について

『第 4 次地域福祉活動計画（案）』に第 1 章から第 3 章までが入っている。この資料は説明会でも配布している。残念ながら説明会にご参加いただけなかった委員には事前にご自宅に配布させていただいた。本日、机上にも配布している。事前配布した『第 4 章計画への期待』の資料は、第 4 章・第 5 章の内容と一休みできるような読み物的な内容のブレイクのページをちりばめている。机上配布の『第 1 章計画策定の背景と主旨』の三種類をご覧ください説明させていただく。『第 1 章計画策定の背景と主旨』は説明会で配布した『第 4 次地域福祉活動計画（案）』の第 1 章から第 3 章の内容の修正部分を抜粋してまとめたものである。

『第 4 次地域福祉活動計画（案）』の目次で構成をご確認いただきたい。第 1 章は計画策定の背景と主旨、第 2 章は、第 3 次の計画を振り返りながら第 4 次の計画の方向性が記載されており、第 4 次計画の中心になる部分である。第 3 章はネリーズが中心の説明となっており、また、評価はどのように行うかという内容になっている。第 4 章は委員からいただいているコメントを掲載させていただき、第 5 章は資料編となっている。目次の第 5 章の一番下に米印で書かせていただいているが、ブレイクの記事については空きページにち

りばめている。

第 1 章から第 3 章で変更した箇所を簡単に説明させていただく。『第 4 次地域福祉活動計画（案）』3～6 ページと 4 ページに渡って記載されている第 1 章計画策定の背景と主旨を 2 ページに圧縮した。前回の策定委員会でご意見をいただき、推進部会で議論をした結果、(3) 地域福祉推進を担う練馬区社会福祉協議会への記載に力を入れようということになり、(1) (2) にあったグラフや表は除いた。前回の策定委員会でも委員からご意見をいただき、公助のあり方、社協の役割としての公助への働きかけ方、行政と社協の強みを活かしながら地域福祉をしていく記述を加えた。

『第 4 次地域福祉活動計画（案）』第 1 章 (3) に公助との連携、ソーシャルアクションの役目も持っていることを追記しており、第 2 章 14 ページ (3) 第 3 次地域福祉活動計画から第 4 次地域福祉活動計画へつながるように意識して 6～7 行追記している。区の福祉計画と両輪の意味や行政は住民の力だけでは解決できない問題について取り組み、区と社協がそれぞれの強みを活かして福祉計画と福祉活動計画が相互に連携すること、練馬区社協は行政や住民への働きかけをしていくことを追加記述している。

『第 4 次地域福祉活動計画（案）』27～29 ページにある第 3 章 2. 第 4 次地域福祉活動計画の推進評価は内容を大きく変えている。文章が長く読みづらかったため、(2) 第 3 次地域福祉活動計画での評価の経過に見出しをつけ、整理して書き直している。去年 6 月の策定委員会で報告させていただいた第 3 次の活動についてアンケートなどをとった中間評価結果を文章でまとめた内容になっている。重点事業である小地域福祉活動については、モデル地区では初年度 23 年にアンケートをとり、2 年後にアンケートをとり、地域福祉コーディネーターの浸透具合を評価し、人材育成では、福祉教育で学校を訪問した時の子どもたちの生の声を聴くなどの定性的な評価結果を記載している。モデル地区における小地域福祉活動では、森委員にスーパービジョンをしていただいた。モデル地区で行われる会議に出席したり、各部署でも小地域福祉活動を意識した活動を実施したりした後、評価シートに落とし込んだ。

第 3 次福祉活動計画で重点事業であった小地域福祉活動の推進と人材育成の評価の指標を第 4 次地域福祉活動計画にどう活かすかを第 3 次計画評価方法の推移の図としてまとめた。図の丸印がついている指標については第 4 次地域福祉活動計画でも継続し評価指標とする。三角印がついた指標は、見直し、または終了するものである。例えば、小地域福祉活動の推進ではモデル地区で初年度アンケートをとり、2 年後にもアンケートとっており、終了となるため三角印がついている。第 3 章の主な変更点は、2. 第 4 次地域福祉活動計画の推進評価 (2) 第 3 次地域福祉活動計画での評価の経過で第 3 次計画の結果を第 4 次計画にどう活かすかという内容に変更した点である。委員のみなさんにお渡ししていたものは第 3 章までの内容だったので、第 4 章・第 5 章は資料 1 として本日初めてお渡しする。第 4 章は委員のみなさんからいただいた計画への期待の声である。明星副委員長には若干修正をいただいている。委員長には 150 字以内で依頼させていただいた。第 5 章は資料編で社会福祉の動向などがある。資料 1 の 16 ページ (2) 策定・推進評価委員会等の構成メンバーでは、策定委員のお名前、計画に関わった職員の一覧表を追加するなど若干の修正をする予定である。説明会とパブリックコメントでいただいた意見は第 5 章の資料編に委員長、副委員長と記載する内容を相談させていただき追加していく予定である。ブレイクのページは休憩できるようにちりばめていく。

【質疑応答・意見交換】

委員長：次第 5 の説明を受けて参加者からいただいた意見を計画にどう反映するかも含めて（案）への意見を伺う。

5. 第 4 次地域福祉活動計画（案）説明会・パブリックコメント報告

資料 2 をもとに説明会の開催結果を報告。

ご参加いただいた委員ありがとうございました。

いただいているパブリックコメントは現時点で 1 件。内容はおおむね肯定的なご意見だった。人材育成は専門性と地域福祉の観点での広い視点の両面からの育成が必要とのご意見をいただいた。パブリックコメントの募集期間が短いとのご意見を受けて、当初、10 月 9 日～26 日であったが、11 月 9 日までと変更した。いただいたご意見についての計画への反映の仕方は委員長、副委員長に相談させていただきたい。

説明会での質問および回答についてであるが、ピックアップして簡単にご報告する。質問は合計 28 件（練馬 11 件、石神井 6 件、光が丘 2 件、大泉 9 件）。配布した資料は意見を 7 種類に分類して表示している。①地域福祉協働推進院（ネリーズ）に関しては、ネリーズの活動内容や人数、ネリーズの連携の仕方、課題の共有方法についてのご意見が多かった。回答については、計画の中で予定されている内容を伝えている。4 ページの Q6. 「練馬らしさを出してほしい。」というご意見がありました。回答としてはご参加いただいた森委員からも発言をいただいている。4 ページの一番下の感想に記載されているが、「今やっていることがネリーズなんだと思った。」とい嬉しうご感想もいただいた。②地域福祉コーディネーターについては、概ね地域福祉コーディネーターの配置へのご質問であった。回答は、今年度からの生活支援コーディネーター、見守りコーディネーターの説明とともに説明いたしました。③小地域福祉活動のすすめ方ですが、小地域の範囲、重点地域に関する質問が多く出ました。地域福祉コーディネーターに関する質問と重なるが、生活支援コーディネーター、見守りコーディネーターの配置を含めて回答しました。また、地域福祉コーディネーターとの連携についても質問があり、現在の地域福祉コーディネーターの動き、成果とともに説明した。10 ページの Q. 8 では、第 4 次の計画では、第 3 次の計画での地域福祉コーディネーターの活動の具体的な検証、成果が伝わってこない。抽象的な総括が多く、地域福祉コーディネーターがどのように機能してどんなことをやれたのかを広く伝えてもらえたらと思う。また、地域福祉コーディネーターという言葉ではなく、ファシリテーターやエンパワーメントなど一歩踏み込んだ能動的な地域での活動をしてほしいというご意見もいただいた。12 ページの Q. 9 は、福祉教育へのご意見である。説明会にご参加くださった知的障害のある方からは、自分たちが小学校などに行き自分たちの言葉で話したことは福祉教育に役立っており、この活動がネリーズだと実感したとの感想もいただいている。④地域課題については、ご参加いただいた住民からぜひ一緒に活動していきましょうとの意見が寄せられた。⑦その他では、質問および感想の中で、お役所的な言い回しや横文字でなく高齢者にもわかるように説明してほしいとの感想をいただいた。いただいたご意見を検討し、反映できるところは反映していきたい。

【質疑応答・意見交換】

委員長：説明会やパブリックコメントの結果、本編を修正した箇所はあるか？

社協職員：ない。

委員長：質問に対する返答で納得できたということか。

社協職員：説明会の当日いただいた質問に返答し納得いただいたこととそれを本編に反映させるかは別のことと考えている。説明会で質問いただいた方からはパブリックコメントでもご意見をもらえるかもしれない。

委員長：今後、パブリックコメントを受けて内容が変わるとのことと理解した。どういう人が参加された

のか。Q.8 のご意見を出した方は素人と思えない。こたえることには力量が問われる。第 3 次の計画で取り組んだ活動の総括が甘いとの意見もある。分厚い計画書にしなくても第 3 次の総括を別冊でも出せるようにしておくべきと思う。実践したことを何かの機会にきちんと示せるようにしておくが良い。

70 万程の人口でいただいた意見が 30 程度では寂しいと言えば寂しい。

委員：大泉かたくり福祉作業所に参加した。参加された方はその場で資料を受け取ってご覧になったので深いところの質問はできなかったのではないかと。そもそも説明会のようなところにも一般の方はなかなかいらっしやらない。地域福祉活動計画（案）をみる人もなかなかいないと思うので、何人かでも参加して下さったのは良い。第 3 次地域福祉活動計画の成果・評価の説明がよくわからないとのご意見があった。今回そこが変更されていると思う。数値などで目に見える形にはなりにくいのかもかもしれないが、やったことは宣伝しないと何をやってたのかと言われかねないのでしっかりとしてほしい。

委員：他委員と大泉かたくり福祉作業所の説明に参加した。会場での資料配布では内容を読み込むことは難しい。質問で出た意見は参加された方が普段気になっている部分を質問として挙げたのではないかと。

委員：光が丘の説明会に参加した。気になった点の一つは地域福祉コーディネーターの活動、第 3 次地域福祉活動計画の総括が第 4 次地域福祉活動計画（案）にどう反映されているか表現しきれていない部分がある。第 4 次地域福祉活動計画（案）で挙げているものは、地域福祉コーディネーター活動の成果を踏まえたものになっていると感じているが、計画（案）の中で伝えきれていない。第 4 次の計画に書いていくのが良いのか。練馬区民であるが、地域福祉コーディネーターの存在と何をやっているのか住民に伝えていくことが課題だと思う。もう 1 つ地域福祉コーディネーターが出てきて、ネリーズが出てきた。今後、さらにネリーズの説明をしていく時に説明会でいただいたご意見にもあるように区民のみなさんに住民が何をすればよいのか、理解やイメージができるようにした方がよい。他の地域では例えば地域福祉推進員のような役割を担うと“こういう仕事をやってください”と仕事を依頼されることもあるが、ネリーズは“これをやってください”ではなく住民の“気づき、育ち合い”が特徴である。そこをわかっただけでないとネリーズになったけれど「何をやるの？」のとなってしまう。練馬区社協が何を大事にしているかは計画の文面に入れておくのではなく、ネリーズへの理解を住民に求める時に伝えることが必要と思う。

委員長：文京区社協が地域福祉コーディネーターの成果を毎年パンフレットで出している。どこに配布されているかはわからない。立川市からの要請で立川市社協も作る予定である。都内のかんりの地域に呼び方は様々だったり、地域福祉コーディネーターといっても中身はコミュニティーソーシャルワーカーになるものだったりすることもあるが、何をやったか発信すべきである。地域福祉コーディネーターを知っている住民はほとんどいないと思う。区報や社協の広報で発信する努力をしてほしい。ネリーズよりも地域福祉協働推進員の方が何をするのかわかりやすい。ネリーズという名称では何をするのかぼやけやすいので中身が伝わるように説明をする必要がある。目標とするネリーズは 700 名ということは、人口が約 70 万人として、1,000 人に 1 人の計算になる。水俣市は人口 28,000 人でふれあいネットワーク登録者は 2,200 人。人口 30 倍いて、登録者が 1/3 程度、1,000 人に 1 人では区を動かしていく下支えとしては弱いと思う。委員のみなさんは自分の持ち場で活動されている方でそこからみていただければよいと思う。

副委員長：説明会は好意的な方たちが参加されていて驚いた。第 4 次地域福祉活動計画（案）は読みやすくなっていると思う。地域福祉コーディネーターはようやく定着してきた。練馬区との連携で色々なコーディ

ネーターが出てきて迷ってしまう。練馬区社協ではそれらすべてを地域福祉コーディネーターと呼んでいくということが第 4 次地域福祉活動計画（案）を読むとわかるのだが、第 2 章 1. (3) 第 3 次地域福祉活動計画から第 4 次地域福祉活動計画へ①練馬区地域福祉計画との連携に書いた方が良いのではないかと。3 つのコーディネーターを練馬区社協では一緒に担っていくと記載してはどうか。「誰でもわかるように横文字を使わないで」との意見があったが、“PDCA”を最初に説明した方が良い。せっかくわかりやすくなってきたのでこの 2 点でひっかかる人が出ないようにした方が良いと思う。

社協職員：第 3 章の“PDCA”か？

副委員長：第 3 章の終わりに説明があるが、“PDCA”の言葉が出てきたときにそのページの中で用語解説があった方が良い。

6. 第 4 次地域福祉活動計画概要版（案）について

概要版を作成中である。今回の概要版も本編と同様に誰にでもわかりやすく、“絵本のように”を目指している。今回の提示資料をベースにして、これから内容を詰め、手を加えていく。ページ総数は 8 ページで考えている。構成としては、1 ページ目が表紙。イラストはネリーズたちの“つながり”をイメージできるイラストの作成をイラストレーターに依頼している。2 ページ目は区との連携についてと社協の説明を入れる。3 ページ目は目指すまちの姿としてのイメージ図を入れ、ネリーズと地域福祉コーディネーターが良い地域を作っていくイメージ図を載せる。4 ページ目は理念と体系図。5 ページ目では“2 つの視点”の説明をしている。6 ページ目で地域福祉協働推進員であるネリーズのかかるたを使って説明している。7 ページ目には緩やかに見守り合える地域がイメージできる絵を入れたい。最後のページに社協の地図や連絡先を入れる。“見やすく・読みやすく・わかりやすく”をテーマとしてデザイナーの協力を得ながらわかりやすくデザインしていきたい。デザイナーに見てもらったところ「1~5 ページが堅い内容となっていて、ネリーズのページまで読み進めていただけないのでは」との意見をいただいた。ストーリー性のある流れのあるデザインにしたり、各ページに帯をつけてネリーズとして日頃行っている活動を描いて吹き出しを入れたり、ネリーズを使って次のページに読み進めていただけるような工夫などをしていきたいと考えている。区とタイミングを合わせていくが、1 月の初旬の発行を考えている。ご意見をいただきたい。

【質疑応答・意見交換】

委員：7 ページの絵でパワーポイントでの説明では動きがあったが、概要版では動きがないのでわかりにくい。

社協職員：デザイナーとは「絵の中にコメントを入れ、動きを出せるように工夫しては」と話し合っている。

委員：計画への期待に委員がコメントしている。私もコメントを提出しているので掲載していただきたい。概要版を作るのは大変難しいと思う。理念や目指すものの説明が出ていてよくわかるが、概要版では“地域福祉コーディネーターとは”、“ネリーズとは”を伝えることが肝だと思う。表現が物足りない。文字を少なくし、絵本的に見やすくするのは大賛成だが、伝えたいことがわからないのでは問題と思う。1 つでも 2 つでも、こういう活動をしてこうなったという具体的な例を挙げて、地域福祉コーディネーターの活動を伝え

られると良いと思う。6 ページ目であるがページを大きく占めているが、「どんな人？」と言われたら「こんな人」と答えられなければいけないと思う。説明会で質問があったように具体的に説明してはどうか。どんな年齢でも地域を愛し、地域でつながっていきたくて考えている方がネリーズであるというようにみなさんから出た質問を簡略化して Q&A にして記載してはどうか。今の概要版は漠然としている。7 ページ目で犬を連れた高齢者に「犬仲間に参加しませんか？」と誘っている男性がネリーズなのだと思うが、孤立を防ぐために意味のある活動だと思う。電気をつける活動に至らなくても安心なまちづくりに貢献している。みんなネリーズで良い。犬を通じての地域のつながりは私も進めてきたことであり、大変嬉しい。地域福祉コーディネーターがネリーズを支えてくれることが分かる内容であるとなつながりがわかって良いと思う。

委員長：かるたの大きさを小さくすれば良いということではなく、組み替えが必要か。7 ページ目は地域福祉コーディネーターがかかるとこうなるという動きが出るようにすることと雑然としないような配慮が必要と思う。4 ページと 5 ページにある絵は小さくしても良いのではないか。

副委員長：第 1 章になぜ今こういう活動が必要か、がわかるような内容をコンパクトに記載しては。地域福祉活動計画の位置づけやどういうものかといった説明は少なくとも良いと思う。今の日本や地域社会の状況が盛り込まれていると良いと思う。

委員長：2～5 ページは文字数を小さくしても読む人は読み、読まない人は読まないと思う。

委員：2 ページはこの内容ならば無くても良いのではないか。計画の中で区の計画と連携してやると記載されている。区の計画への片思いにならないと良いが、区の地域福祉計画の実現を地域福祉活動計画を通じて支えていく、ことを記載してはどうか。

委員長：最終的には 1～2 月に計画が固まって概要版と同時に出る。16 日に最終案を出し、委員に見てもらう手順になる。説明会での意見や第 4 次地域福祉活動計画（案）のさらに深く検討する時間は今後ないので事務局に意見を出し、練馬区社協と委員長、副委員長で最終案をだすことになる。概要版が 8 ページは多いと感じる。見開き 4 ページ位にならないか。A3 見開きよりも A3 を縦 4 つ折りにしてシーンが変わるようにしてはどうか。縦長で 8 ページになるイメージ。字のポイントももう少し小さくて良いのではないか。配る時も受け取りやすく、最初のページを読んで次のページを読むとさらに読み進めたいくなるような工夫をしてはどうか。4～6 ページのあたりで意見があれば事務局に寄せて欲しい。またみなさんにフィードバックしていく。

社協職員：まず、委員に意見をいただけて掲載していないことをお詫びしたい。みなさんに確認させていただき、欠席委員に依頼させていただきたいことがある。第 4 章計画への期待で委員のみなさんには 4 行でコメントを書いていた。欠席委員は「これまでの地道な活動を刷新し新たな活動をすることを期待する。」とのコメントをくださっている。おそらくネリーズのことだけでないと思われる。ここを膨らませて書いていただきたいと相談したが、「字数が決まっているから。」との返答だったが、膨らませて書いていただけて良いか。

委員長：計画への期待に膨らませて書くか、委員が担当した評価の部分に書き込むか。

社協職員：今後に向けての課題と展望に書き込んでいただく。

委員長：委員に確認して進めてほしい。

7. 地域福祉協働推進員について

資料 4 を用いてネリーズ周知の進捗状況を説明させていただく。8 月の策定・推進評価委員会でご報告したものに追記した形になっている。資料 4 の表題は“地域福祉協働推進員（ネリーズ）の進め方に周知の進捗状況”となっているが、“の進め方に”を削除していただきたい。ネリーズの具体的な展開方法としては、4 つの地域で懇談会を行っている。練馬では豊玉地区関係団体懇談会（とよこん）の取り組み、光が丘ではどんぐりの家での取り組み、大泉では大泉西出張所、石神井では谷原出張所での見守りの取り組みが行われており、連動させながらネリーズの懇談会を行っていく。全区的な集まりの場も設けていく。4 地域で行っているネリーズ周知の説明会を行っている。説明会でとどめるのではなく、説明会をした後に懇談会という形でネリーズになっていただいた方が集まれる機会を設けていく。10 月上旬にネリーズ登録者へ第 4 次計画案説明会の案内のちらしを送付させていただいた。かたくり福祉作業所や白百合福祉作業所のまつりのちらしも同封した。説明会には案内をみて参加して下さったネリーズの方がいた。アクションすることでネリーズの説明会への参加があった。1 月に会員の感謝のつどいを行い、その際、ネリーズの周知と募集を行う。3 月までにネリーズの全区的な集まりも行っていく。括弧内は部署名の省略名である。

資料 5 を用いて説明させていただく。資料 5 は、説明会でいただいた意見と返答である。ネリーズは子ども、障害のある方、高齢者などそれぞれの立場でできることを担っている方なら誰でもなれるんですよと回答している。いただいた意見に答えることでネリーズをより知っていただけることがあり、8 月の策定・推進評価委員会でお示ししたものに追記してある。追記した箇所は日付に下線が引いてある。6 ページ 7 ページの内容は新たに追記した内容である。民協で説明を受けた時にはネリーズへの登録を躊躇された方が、9 月 9 日の生活サポートセンターの運営委員会で再度説明を聞きご登録くださった。かたくり福祉作業所利用者への説明会では「自分たちで何かできることがあるかもしれない。」「ネリーズになりたい。」「子どもたちの見守りしたい。」といった声をいただいた。10 月 26 日現在、114 名の方が登録いただいた。団体登録 3 団体。今は、ネリーズの説明を中心に行っているが、懇談会で情報共有を行っていくこと、ネリーズは気付き育ち合いを大事と考えており、ネリーズのみなさんと進めていきたい。

【質疑応答・意見交換】

委員：団体登録 3 団体とある。こういう団体がネリーズになるとどういう活動になるのか。

社協職員：夢工房は、利用者のみなさんが地域に出て掃除をしたり、散歩をしている時にネリーズバッジをつけて地域に貢献したいと考えていることをアピールしていけたらと考えていらっしゃる。そのため、利用者一人ひとりがバッジをつけたいとおっしゃっている。一人ひとりにさしあげたいと考えている。夢工房は知的障害者就労移行 B 型で施設建設の際には地域の反対を受けた作業所なのだが、地域に貢献できることを態度で表したいと考えていらっしゃる。ニチイホームとベネッセは有料老人ホームで、地域に貢献したいと考えいらっしゃる。例えば、暑い日なら散歩途中の高齢者に水や冷房の効いた部屋で涼んで一休みいただいたり、トイレを使用していただいたりと協力できるとのことである。バッジをつけていると練馬区社協やネリーズを応援していることが伝わると考えていらっしゃる。

委員：入所者でなく施設を利用するということなのか。

社協職員：その通りである。施設職員が区民の方に声をかけていきたいと考えていらっしゃる。

委員長：ゆくゆくは入所者が子どもたちに本を読み聞かせるなどの活動につながると良い。

委員：それは生き甲斐になると思う。

委員長：委員がおっしゃったようにネリーズは自分で活動していくというものだが、スタート時はそれなりの仕掛けをしないと、概ね 1 か月もすると登録したことも忘れてしまう可能性がある。オレンジリングももらってしばらくすると忘れてしまう。役割がないとなかなか動かない。指導的な役割を与える必要はないが、なんとなく常に軽い役割をつくらないと放っておくと離散してしまう。水俣市は懇談会後の 1 か月の間に 1 回は行動することを前提としている。

【実習生一言コメント】

実習の最初に実習担当者からネリーズの説明を受けた。この場で詳しい説明を聞いて地域への活動が理解できた。自分の住んでいる地域でも地域をよりよくする会議を開いているのかと思えた。知れて良かった。

委員長：ご自身の地域のことを調べると良い。

実習生：調べてみます。

実習生：練馬区民だったらこういった会が開かれていたらどう思うか考えて参加した。ネリーズは名前だけでは何のことかと思った。地域を考えている人はたくさんいて、説明会に参加した人たちや施設の利用者につながって広げていくことが大事だと思った。

実習生：概要版の公園の中の子育ての中の“お母さんたち”は公的なところの表現としてはまずいと思った。

実習生：練馬区社協の理念がどう実現されるか拝見したいと思った。

実習生：委員会の構成メンバーは様々な分野で活躍されている方々が意見を出し合って、資料を読みやすくするように作り上げられていることを知った。

実習生：実際に地域住民を活動に取り込んでいくために、地域で活動している方々の目線の意見をいただくことで地域住民が理解しやすい、より参加しやすい提案になると理解した。

実習生：様々な分野の方がいろいろな視点でよりよい地域にする策定に参加されていてびっくりになった。

実習生：地域福祉活動計画の説明会にも参加した。その時と違って地域の方の意見を詳しく知ることができて勉強になった。

実習生：実習 2 日目。これから実習をする上で視野を広げて深くみていきたいと思った。

実習生：計画を住民にわかりやすく示すために意見を出し合っこのことをしていると学ことができた。

実習生：実習 3 日目。練馬区事業がしっかりつかめてはいないが、実習の中で育てあいという言葉が職員から聞いていた。住民にわかりやすく伝えようという努力を感じ取れた。

実習生：活動計画案の概要版をもっと小さくするという意見があったが、現段階の概要版でも読みやすくありがたいと思ったがより小さくするのはどうやるかが印象的だった。

実習生：実習が始まったばかりでわからないことが多く緊張が解けていない。会に参加して練馬区社協が目指すものがみえてきた気がする。

実習生：実習 2 日目。小地域地域福祉活動や地域福祉コーディネーターの説明を受けた。委員会に参加することで、より立体的に理解できた。

6. まとめ

委員：参加した説明会は雨で出席率が悪かった。他委員が出席し、フォローしてくださってありがたかった。もう少し柔らかい文章にならないと手に取って読む気がしない。最初から最後まで目を通すのは大変。表現が堅いと思う。軽く収めてほしい。

副委員長：いよいよ住民主体と謳っている練馬区社協の理念が実体化する、第 4 次の計画はそういうもの、と思ってわくわくしている。ネリーズに登録した。職業柄地域をみているが、意識するのはとても大事と思う。ネリーズとして第 1 号としてやったことは、認知症の母と同居している娘さんが仕事をしているのだが、デイサービスの迎えの時間に差がある。普段そんなに親しくしていない人に 30 分くらいお母さんをみてくれないかと頼んだら OK だった。ご自分のおじいちゃんおばあちゃんはみていた人。意識しないとできないことと思う。意識は大事と持った。

委員長：副委員長のような方が行ったことは意識したこともあるが、あちこちで積み重ねられていくことが大事で副委員長だけではできない。ネリーズを説明する犬の散歩の図では、様々な活動が連続的に起こるが、委員の一人がおっしゃったように複雑にしなくても一つひとつの取り組みがつながって新しい活動につながることもあるかもしれない。シナリオを凝らずに単純で良いと思う。一人でやって一人で抱え込まず共有し、一緒に活動していくことにつながると良い。わかりやすく中身のある概要版にしてほしい。

興味がない方にはとぼしていただくとして、本編では、理論的に詳しく書いてある箇所があっても良いと思う。説明会に見えた方で詳しい方もいらっしゃるの、例えば地域福祉コーディネーターとコミュニティーワーカーとコミュニティーソーシャルワーカーがどう違うのかを説明する必要もあるはず。すべて優しくすることではない。とりわけマニアックな方向けのページがあっても良い。

なぜ、練馬区社協がこだわっているのか、堅いの柔らかいのあわせて構成をしてほしい。2 月に出来上がったものを集まってみる予定。

社協職員：区との計画の進捗にあわせて実施を考えており、2 月に最終確認をお願いしたい。2 月 17 日 (水)、

18 日（木）、19 日（金）のご都合はいかがか。

7. 次回の日程について

2 月 18 日（木）か 19 日（金）で欠席された委員のご都合を伺って早めに返信する。時間は、18：30 から、会場は未定、追って連絡差し上げる。

以 上